

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	特定医療法人社団 駿甲会		
事業所名	グループホーム 実夢静波 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	平成27年7月10日	評価結果市町村受理日	平成27年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=2295800078-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のご利用者さんの生活歴は皆さん異なります。そのため、入所後の居心地のいい生活を送るためには過去の生活歴を考慮しながらご利用者さんの残能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しています。外出の機会をなるべく増やし、ボランティアさんの参加も積極的におこなっています。施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動展開に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の老人保健施設における相談員を経て本年着任の新管理者は、対人援助力に優れています。職員に依頼するとき、質問するとき、相手を中心に置く会話が自然に流れていて、フラットな関係であることを視認しました。主任と副主任に従来からのヒエラルキーを発揮してもらい、管理者は側面的支援をおこなうという役割分担が上手くいっていることは職員からの聞き取りからも確認されています。このような「働きやすい、環境の下、ミニ菜園で採れた野菜を地域へ無料配布する」といった温かななかにも熱情が感じられる取組みがいくつか発進していて、今後の展開に期待が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を全員で共有し、実践しています。職員が出入りする場所に提示し、常に個々が意識できるようにしています。	理念は職員で話し合い作成したものを引き続き実践しています。「こうしたほうがいいのでは？」との職員による活発な進言には「居心地の良さと何か」に注視したものが増えていることを管理者は受けとめています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの来訪を積極的に募り、地域にもこの施設がどのような施設なのかを発信しています。	月3回を目指し管理者が足を運んだ結果、ハーモニカや菜園の手入れにとボランティアが訪れています。収穫野菜は玄関前のボックスに小分けに置かれ、近所や家族の皆さんに必要に応じて利用してもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会にて施設発行の新聞にて施設の活動風景や、認知症理解についてお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、意見交換をしています。	町内会長、行政担当者、民生委員も顔を合わせるなか、おやつの試食タイムも設けています。社協職員からは権利擁護について説明の機会もあり、制度がより身近に感じられる有意義な集いとなりました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会にて、行政や包括支援事業所にも参加をいただき、施設、行政の情報共有しています。	平日昼間の開催もあって運営推進会議にはほぼ毎回参加してもらえ、欠席の場合は議事録を届けることを約束しています。市職員からは制度改正にあわせて、具体的な注意点や申請手続の指導もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを宣言しています。身体拘束は行いません。	法人本部主催の事業所事例発表及び検討において身体拘束に纏わる多様なケースを学び、自事業所ではどのように安全を図れるかを改めて認識しています。さらに、年数回おこなわれる事業所間の職員交流(交換)によって体験を通してハウツーを習得しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあってはなりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進委員会で行政から権利擁護の説明を頂いています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」など施設とご利用者さん側でもめてしまうのは初期契約の説明不足によるものです。細かなこともしっかり書面で記載し、常識的なことであってもしっかり口頭で確認します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度スタッフ会議を開催し、個々の職員が耳にしたご利用者さんのつぶさな意見や要望を、スタッフ全員が共有できるようにしています。	毎月発行される便りは63号を迎えました。カラー写真も美しく、家族からも「活動の様子をどんどん撮ってください」とエールが届いています。さらなる相互理解に向け運営推進会議の議事録配布や家族会を予定しています。	現在も花火観賞会といった集まりがありますが、「家族会としての実体を考えていきたい」とのことなので、ぜひ実現を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上記同様にスタッフ会議にて意見共有を密にしています。	行事や外出に係る費用は近隣事業所の情報を得て足並みをそろえることに留意していますが、職員に芽生えた向上への気持ちを大切にしており、自由闊達な意見が挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に法人本部の会議に出席し、職員一人一人が働きやすい職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が開催している会議に出席し、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業所連絡会に参加し、意見交流の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族との面談を行うことや、事前に施設見学をしていただき、施設の理解を深めていただく。納得した形で入所をしていただくように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族が抱えていることにしっかり耳を傾け、施設で取り組めることや、既に取り組んでいる内容を施設で作成している新聞などでご案内しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談＝入所ではなく、本人や家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他サービスのご案内をするように心がけています。また、その後の経過も確認し、ご利用者さんが迷わないように配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという施設であっても「家で共に生活している」ような環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ささいな面会の際にもなるべく家族と会話し、最近の様子をお知らせするように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでかかりつけであった医師などの関係をなるべく切らないように施設としても出来る限りの支援をしています。	携帯電話を持つ人もおり、喫煙や飲酒といった嗜好品も熟思のうえ導入を試みるようにしています。昔馴染んだ港や自宅周辺へ出掛けて回想を愉しんだり、またボランティアと馴染みとなっている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者さん同士が共に活動できる場を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく声掛けして頂けるように声掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を設け、本人の意向の把握に努めています。スタッフが一人で困らないようにスタッフ会議を活用し、施設で問題解決に努めています。	センター方式への形式に囚われず、また利用者との関わる時間へと移行させることも好転と捉え、アセスメントの方法を順次替えています。担当制を敷いていることで、要望にタイムリーに応えることができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問調査にて本人の意向や趣向を十分考慮し、サービスに繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24項同様、事前訪問調査などで生活状況や生活スタイルに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一般的なケアプラン作成に努めることはもちろんですが、スタッフ会議で他職員の意見も十分考慮し、計画作成に努めています。	気付いた点は申し送りノートやスタッフ会議を活用して職員間で共有し、課題把握に努めています。事業所理念である利用者の望むことが実現できるように、個々の計画に記載され反映されている様子を確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	適宜記録用紙の見直しを行い、記録方法や、後の閲覧がしやすいように配慮しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルでの施設生活を提供するのではなく、個々の状況に合わせた過ごし方を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会やボランティアさんを活用して本人の残存能力を発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	決まったかかりつけ医師、決まった薬剤師にアドバイスを受けながら、医療支援を受けています。	日頃の症状を伝えることのメリットを重視して職員が受診介助をおこなっています。協力医以外でも近隣であれば同行しており、医療連携が密なことでも有益な事例につながり、職員の克己となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の看護師訪問にて健康の相談を受けられるように配慮しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と密に連絡をとりながら、なにか心配事があったさいにはすぐ相談できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に身体状況や、精神状態の悪化の際のことを十分に話あっています。施設側から一方的に「このようなマニュアルになっている」ではなく、家族が望むことや、困っていること、心配している事に十分傾聴しています。	本年度は未だ実績はありませんが、昨年までに3例の看取りをおこなっています。特別養護老人ホームと並列で申し込みをしている人が多くいるため重度化に至らずに移設となるケースが続き、近年の事例はありませんが取組み姿勢はもっています。	費用のことで並列申込なら致し方ありませんが、移設は本人の症状によいとはいええないため、今後は入居時に認知症の特徴と対策について十分家族と話し合うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の会議などで緊急時の対応について勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。スプリンクラーの設置もあり、年2回の法定点検も実施して消防署に提出しています。	食器棚や冷蔵庫にも転倒対策が施され、テレビも壁掛けとなっています。本部のMQM推進部から定期訪問と毎月の会議があり、見直しとともに新規性のある器具が配され、安全安心の態勢にあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いに十分配慮することはもとより、個々の人格や、考え方が異なることを十分配慮して対応しています。	実夢静波だよりをはじめ表にできるものには充分配慮し、また事前に家族と書面を交わし合意を得た範囲で対応しています。本年から入浴日を選べるようになり、また食事でも時折セレクト式をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の担当職員を設け、自己決定や思いを表現できるように環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者さんの希望が全て叶うという訳ではありませんが、十人十色の方が入所していることを職員一同肝に銘じ、なるべく希望に沿うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみを整えることは、人としての基本動作であり、鏡をみて整髪することで認知症の進行を緩やかにできると、施設一同考えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの楽しみは食事に対する比重がどうしても高くなります。そのためなるべく食事を楽しく召し上がっていただけるように、買い物の動向や、お手伝いを可能な限りお願いしています。	季節の彩りを工夫し、また桶でちらし寿司といったイベント性のあるメニューも提供しています。全員の食事が済むまで食器は片付けない、手と声を合わせ食事前に挨拶をすることを旨としていることを視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の食事形態も個々のご利用者さんによって異なるものです。毎回の食事の様子を確認し、変更がある際には迅速に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底しています。義歯の調整などが合わない際にはすぐに歯科受診をするように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員の手間で安易に夜間のオムツを使用することなく、夜間であってもなるべくトイレ誘導するように心がけています。	6ヶ所あるトイレは敢えて職員専用を設けず「自分が使いたい状態か」利用の都度チェックが成されています。排泄の意志表示ができない利用者もパターン把握と声かけによって失禁が減ったとの改善例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に1度の看護師訪問にて健康の相談を受けられるように、適切な排泄アドバイスを受ける様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めておらず、本人の気分に合わせて入浴するように心がけています。	本年から入浴日を廃し、その日の気分とその時の選択を尊重する方式に切り替え、目安を週2~3回としています。また身体的負担が入浴拒否とならないよう長湯することを減らして、短時間浴やシャワー浴をおこなうこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜遅い時間までテレビを鑑賞する方もいれば、早々にお休みになる方もいます。本人が無理をしない様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局を決まった薬局に決め、薬剤師からアドバイスや相談に乗ってもらえるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者さんだから座っていただく。ではなく、お手伝いを募り、個々の能力で出来ること、無理のないことはお手伝いして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身近な場面では畑があるため、近くの園芸店に出掛けたり、いつもの食材の買い物に出掛けたり、外出の頻度を多く設けています。	事業所の周辺には自然も多く遊歩道も完備され、10分程度の散策を楽しみます。食事とお茶の間の時間帯に散歩やちょっとした外出をおこなっていて、買い物外出を生活の一部として位置づけ「目薬買いに行こうか」と気軽に誘うようことを旨としています。	家族アンケートからは戸外活動について「十分」「不十分」と意見に差があります。心身の状態による差が大きくでないよう、戸外へでかけた回数をカウントして検証するといった是正を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のおこずかいを施設で預らせていただき、外出の際にお買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みも可にしています。家族とお話されたいときには本人の希望がかなう様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理を徹底し、移動の導線に障害物がないように配慮しています。もともと外が見渡せる作りになっているので、季節感がわかるように配慮してあります。	灯りは蛍光灯ですがカバーがかかっていることで柔らかい印象のリビング照明となっています。転倒防止のため無駄な家具を置かず動線が確保され、またエアコンは扇風機で直接冷気が当たらないようにしています。夜勤帯が丁寧に磨いており、シンクには水垢さえありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を配慮してなるべく気の合うご利用者さんと交流できるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器を使用するものや、ペットの持ち込み以外は持ちこみを可としています。今までの生活環境に近づける様に配慮しています。	実際テレビもあり持ち込みを奨励していてもベッドのみの寂しい印象の居室もありましたが、ごみ箱は自身で管理できていることに驚きました。何気なく置かれた化粧品や手鏡からは女性として生き続けるとの意志が伝わってきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋などが分からなくなり、混乱することない様に配慮しています。また、転倒事故など起きないように、施設内部の整理整頓に心がけています。		